

「日本学術会議の今後の展望について」の論点についての意見

平成 26 年 11 月 12 日

畠中誠二郎

Ⅱ. 活動のさらなる活性化に向けた課題

1. 科学者コミュニティの代表機関としての役割強化

(1) 科学者の総意の反映

- 全ての科学者の意見を反映した見解を出すのは、現実的には難しいのではないか。社会的なニーズに応じてより時宜を得た見解を示すためには、代表性をもった組織で議論して短期間で見解を出す仕組みを更に充実させるべきではないか。

(3) 会員・連携会員のあり方

- より多くの会員・連携会員が実質的にコミットするようにするためには、まずは、日本学術会議の社会的使命を明確にし、それを会員・連携会員に示すことが必要なのではないか。

2. 提言機能及び社会への発信機能等の強化

(1) 政府との関係、(4) 社会的な課題、政策課題への対応

- 出した提言等を政策に反映させることも大事であるが、社会的な課題となっているようなテーマについても科学的な見地に立って正面から議論を行い、中立的かつ専門的な見解をしっかりと出していくことが、政府との信頼関係の構築に繋がるのではないか。

活動全般について

- 活動の幅をあまり広げ過ぎず、日本学術会議の役割、社会的使命を改めて明確にした上で、日本学術会議だからこそできることにある程度焦点を絞って活動してはどうか。
- 例えば、東日本大震災や研究不正の事案の発生で科学者自身の社会的責任の問題がクローズアップされる中で、
 - ・今、社会において科学者はどのような役割を果たすべきか
 - ・そのような役割を担い得る科学者を育てるために、科学者の育成や評価の在り方はどうあるべきかといった課題は、幅広い学問分野をカバーする科学者を代表する機関として位置付けられている日本学術会議が扱うに相応しいのではないか。